

# 平成 27 年度 『四季の郷』 事業報告書

## 1. 生活支援の状況・課題について

### (1) 四季の郷の支援目標

『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

### (2) 利用者の状況

利用者の年齢構成 (単位：名/施設入所支援利用者 48 名中・H28. 3. 31 現在)

	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	計
男性	0	6	11	2	2	2	23
女性	1	2	5	5	8	4	25
最高齢 78 歳/最若齢 20 歳							

利用者の障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男性				5	9	9	23
女性			2	6	12	5	25
平均障害支援区分 5.0							

### (3) 具体的な支援内容

#### ① 全体的な状況

四季の郷での課題の一つになってる『生活の“めりはり”をつける』ことについて、安定的に歩行や移動ができる比較的若い利用者については、課業活動において散歩や外出の機会をできるだけ多く確保していたり、起居する場とは別棟の作業棟での作業活動を進めてきた。また、特に下肢機能の低下が見られる比較的高齢の利用者については、館内でのレクリエーションプログラムの導入や個別対応での歩行訓練等を行ってきた。また、誕生会や七夕・新年会・節分のような季節の行事も、1 年の中の“めりはり”をつけるという意味で大切に行ってきた。

一方で、がんや脳梗塞を発症する利用者が見られたり、下肢機能や嚥下機能の低下が見られる利用者が目立つ 1 年でもあった。両機能の低下は、ADL (食事やトイレ、入浴、移動などの日常生活動作) の介助程度のかかなりの増加につながった。また、倒事故も前年度より増加の傾向が見られた。

そのような中、以下の点を重点的に取り組んだ。

- 自閉症利用者への取り組みへのアプローチ
- 高齢利用者への介助技術向上に向けたアプローチ
- A・B 棟二舎制への支援体制の変更に向けた検討

#### ② 日常生活動作 (ADL) 支援

A・B 棟と小ユニットの新生活棟の 2 つの場所をベースに支援を行ってきた。

嚥下機能の低下に伴う食事介助の度合いの増加が A・B 棟二舎制体制へとつながっていく 1 つの理由となったが、その他の面についても、介護度がましている状況がうかがえた。

#### ③ 日中課業活動の支援

今年度も、心身の状況、能力、利用者・家族の要望に基づき、以下の平日の 3 つのグループ、土・日の 6 グループに分かれ活動を行ってきた。特に、平日 3 グループでの活動で得た収益を元に、年 2 回、数千円ずつの収益金の還元 (工賃) の支給を行ってきた。

また、この 3 つのグループごとに少人数グループでのグループ活動を実施した。

##### A. 平日の課業活動支援

- 匠グループ・・・作業中心のグループ

今年度は33名の利用者が所属し、活動を行ってきた。

割り箸袋入れ作業、キャンドル作り作業、空き缶リサイクル作業、ボトルキャップ分別作業の4つの作業を行ってきた。作業場所も、別棟の作業棟をできるだけ利用していく等で、気分転換も意識してきた。作業種によっては、材料(部品)・製品の搬入・搬出から実際に組み立てや分別等で終わるものがあったり、特にキャンドル作りは販売の段階まで利用者に関わることができたりして、「喜び」、「達成感」、「やりがい」を感じることに、「地域との交流」を行うことという活動方針に沿った取り組みができた。また、空き缶リサイクル作業については、利用者のご家族に空き缶提供のご協力をいただいた。

ただ、介護度の高まりや夏季日課に伴う日中入浴幅の拡大で、活動回数が伸び悩んできている面も見られた。A・B棟二舎制体制の展開によって、活動単位にも変更が見られることが予想されるが、作業活動をとっても楽しみにしたり得意に思っている利用者も多いことから、作業の機会を大切にしていきたいと考えている。

●コツコツ骨グループ・・・機能維持・訓練中心のグループ

今年度は6名の利用者が所属し、活動を行ってきた。

活動内容は、近くの公園内の歩行が中心であったが、活動が単調になりがちのため、天候によってドライブや大型スーパーの散策等も導入してきた。メンバー的には、心身の状況が不安定になりがちで利用者も多いため、活動時間外の調子や睡眠や排便状況等も把握し踏まえながら支援を行ってきた。そのためか、比較的安定的な参加が見られた。

一方で、課題としては、匠グループ同様に活動機会の確保が難しくなっていることである。

●ワイワイグループ・・・高齢者等の機能維持中心のグループ

今年度は、新生活棟居住者中心に9名が所属し、活動を行ってきた。

活動内容は、ボールころがしや感覚ゲーム等の車椅子利用者でも参加できる室内のゲーム・レクメニューと、映画鑑賞、お茶会等を行ってきた。高齢者施設の就労経験がある職員の意見も参考にしながら、楽しみながら機能維持訓練ができることを目指した。

◎グループ活動実施状況

今年度のグループ活動は、4月の利用者、保護者・家族面談にて個別に外出希望のうかがい、課業活動単位でグループ編成に反映させた。

各グループには外出テーマ(『観光』『食事』『おやつ』『買い物』『散策])があり、それぞれのテーマに沿った外出内容を計画してきた。

活動中は利用者個々の要望に沿うように選択の機会を大切にしたり、利用者の好みに配慮するなど、楽しく活動に参加出来るように支援してきた。利用者の笑顔や満足した表情が多く見られ、充実した活動となった。

<27年度の活動実績>

日付	テーマ	内容	利用者	職員
6月3日	観光	袋井市可睡ゆりの園/浜松エアパーク	4名	2名
6月24日	食事	イオン志都呂(AM)	3名	2名
	おやつ	プレ葉ウォーク浜北(PM)	4名	2名
7月24日	買い物	ららぽーと磐田	3名	2名
8月24日	食事	プレ葉ウォーク浜北(AM)	4名	2名
	おやつ	都田方面 ドライブ(PM)	3名	2名
9月29日	買い物	イオン市野/ぬくもりの森	4名	2名
10月20日	観光	どんどこあさば/御前崎方面	5名	2名
11月3日	散策	愛知県民の森	4名	2名
12月2日	食事	プレ葉ウォーク浜北(AM)	6名	3名
	おやつ	プレ葉ウォーク浜北(PM)	2名	2名
1月27日	食事	麵処天小屋(AM)	4名	2名
	おやつ	和食さと(PM)	2名	2名
3月29日	散策	ガーデンパーク	3名	3名

	合 計	52名	
--	-----	-----	--

## B. 休日等のクラブ活動支援

### ●音楽クラブ

季節に合った歌を歌ったり、鈴やタンバリン、太鼓などを利用した合奏、音楽に合わせた体操や手遊び等を行った。また、その発表の場の1つとして、近隣の高齢者施設に敬老の日訪問やクリスマス会での演奏を行った。利用者個々の音楽の楽しみ方を大切にして、楽しい雰囲気を作りながら支援を行った。

### ●競技・運動クラブ

野外での散歩や『わかふじスポーツ大会』（フライング・ディスク競技）、『オレンジマラソン大会』エントリーを目指し、出場競技の練習を行った。ただ、『わかふじスポーツ大会』、『オレンジマラソン大会』のいずれも悪天候のため、参加を見合わせた。また、県障害者スポーツ協会からスポーツ指導員を派遣していただき、園内でバルバレーやボッチャ等の競技も楽しんだ。

### ●絵画クラブ

利用者個々の絵画制作に加え、今年度はメンバー全員での大きなちぎり絵作りと粘土工作にチャレンジしてきた。普段の生活では見られないような、作品に向かう真剣な表情も見られたことは担当した職員にとっても喜びであった。今後は、もう少し館内展示の方法を検討していきたいと考えている。

### ●園芸クラブ

今年度は、プランターに花の苗を植えたり、秋祭り当日に参加者に楽しんでもらえることを目指して、中庭にコスモスの苗を植えて育てたりしてきた。玄関前や中庭に花が見られることで、他の利用者にも喜んでくれたのではないかなと思う。また、メンバーに花の紹介をする機会も作ってきた。

### ●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。歩行距離を伸ばすより、楽しい雰囲気での実施に心掛け、小グループに分けてなるべく個々の状態にあったペースで実施してきた。

### ●家庭科クラブ

活動内容としては、かき氷やチョコレート・フォンデュ、ホットケーキ等の簡単なデザート作りや裁縫を行った。特にデザート作りの企画では、館内掲示板に参加募集を掛けて参加者を決めていった。特にデザート作りは、かなりの人気企画であった。

## ④行事活動の支援

今年度も、企画の目的別に、全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事、その他の行事、に分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。行事は、日常生活の中での“潤い”であり、営みの目標であり、生活の“めりはり”でもあるので、大切に実施してきた。

### A. 全体行事

#### ●春の親子遠足・・・5月24日（日）

今年度も、豊橋総合動植物に出掛けた。前年度までは6月初旬の実施だったが、気温の上昇で体調不良が出る可能性も高くなったため、2週間ほど早めて実施した。保護者・家族、学生ボランティアを含み計108名で実施した。

#### ●夏祭り・・・8月1日（土）

近隣の高齢者施設のヴィラ東山苑と共催で20回目を迎えた。保護者・家族、学生ボラの協力の元で、盆踊り、出店買い物を楽しんだ。また、地元大山町の手筒花火の披露もあり、地元住民と共に夏の一夜を楽しんだ。

#### ●秋祭り&保護者会バザー・・・11月23日（月・祝日）

12月3日からの「障害者週間」を踏まえての地元大山町の自治会長に一日施設長委嘱企画を含み、浜松市内の吹奏楽団や地元の踊り・マジック一座の出演、地元企業のゆるキャラの参加や出店、そして四季の郷保護者会主催のバザー等を学生や一般のボラの協力の元で、盛大に実施した。

#### ●クリスマス会・・・12月23日（水・祝日）

浜松湖北高等学校吹奏楽部の演奏から会が始まり、四季の郷利用者自治会での意見に基づいて準備したパーティ食の喫食、音楽クラブの発表や職員のパフォーマンス、保護者会役員が扮するサンタクロースからのプレゼント等、学生ボラの協力を受けながら、楽しい時間を過ごした。

#### B. グループ活動

※日中課業活動の支援の中で報告

#### C. 誕生会・季節行事

生活の“めりはり”に季節感を入れ込んでいきたいという理由から、お花見や七夕、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。

#### D. その他行事

県の知的障害者福祉協会や障害者スポーツ協会、労働組合、地元企業等の主催行事にも、積極的に参加してきた。競技系の大会への参加は、競技・運動クラブの目標でもあったが、今年度は案天候のため参加ができず、残念であった。その他、映画会やミュージカル観劇等も楽しむことができた。

### ⑤健康を維持するための支援

#### A. 医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。対応上、生活支援を行う支援員との情報共有や取り組みの確認・調整は当然のこと、食事形態や内容に対策が必要な場合には栄養士との密なる連携を行ってきた。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してきたが、年2回の健康診断等で発見される糖尿病や高血圧、心疾患や呼吸器疾患等は近隣の内科や呼吸器科、循環器科等の専門病院に通院を実施してきた。他、歯科や皮膚科、耳鼻科、眼科、整形外科等、多くの通院も行ってきたが、長期的に通院が必要な場合が多く、予約が重なって、看護師だけの付き添いでは間に合わないことも少なくなかった。

脳卒中による入院が1件見られた。また、転倒事故による骨折ケースが3件（内2件が入院・手術となった）見られたことは気になることである。危機管理の視点でも振り返りや転倒につながる要因への継続的な対応・対策を行う必要を感じた。

また、今年度も1月末から2月初旬にかけてインフルエンザA型の施設内集団感染が見られた。重症者は見られなかったものの一定期間の感染者人数が基準を超えたため、浜松市保健所に報告をするとともに、嘱託医に指示を仰ぎ、全利用者・職員に抗インフルエンザ薬の予防投与を行った。手洗いの励行や予防効果がある消毒薬スプレーを職員個々に所持してもらったり、空間除菌の薬を館内各所に置いたりしてきたが、結果的には効果は見られなかった。

#### B. 栄養管理

栄養管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容は糖尿病食やダイエット食・嚥下食等で、その他食欲不振・偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫をする事により苦手な食材でも摂取できるように努めた。近年は利用者の高齢化の為嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・軟菜食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきている。

また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行った。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けてきた。

献立作成時は旬の食材を取り入れ、食事から季節を感じてもらえるよう提供した。

また震災時への対応として、7日分の非常食と5日分の飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄してきた。

施設利用者にとって、食事は一日の楽しみのおおきな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理をしっかりと行い、次年度も利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

<平成 28. 3. 31 現在>

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	2	2
極小	100g	1550kcal	0	7	7
小	120g	1650kcal	6	14	20
中	150g	1750kcal	3	1	4
大	200g	1950kcal	6	1	7
特大	250g	2150kcal	7	0	7
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			23	25	48

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	0	4	4
	コンニャクライス 低脂肪牛乳	0	2	2
	糖尿食	1	0	1
	心臓病対応食 (塩分制限)	1	0	1
	極刻み食	0	2	2
	刻み食	8	11	19
	一口大	1	2	3
栄養補助食品	嚥下ミキサー食	2	1	3
	微量栄養素補助飲料	1	1	2
	高カロリー食品	2	1	2

●行事食について

年間を通して様々な行事があり、その時期に合った行事食を提供してきた。利用者の要望を取り入れ、旬の食材を取り入れ季節感のある献立作成を心掛けた。また、水曜日のパン提供の日には月に一回、ジャムを自分で選んでいただくセレクトジャムと、好きなジュースを選んでいただくセレクトジュースを行ってきた。

利用者自治会からの希望で出された選択食を行い、今年度は丼物を3種類から選んで頂いた。

行事名	実施月日	メニュー
端午の節句	5月4日	こどもの日ランチ・スープ・エビフライ・コーヒーゼリー おやつ：和菓子（子供の日のパッケージ）
七夕	7月7日	七夕素麺・コロッケ・星の杏仁豆腐
土曜の丑	7月24日	鰻丼・赤だし・南瓜炊き合わせ・小松菜ポン酢和え・フルーツ缶
夏祭り	8月1日	ごはん・豚汁・フライミックス・五色なます
秋のお彼岸	9月24日	おはぎ・みそ汁・さんま塩焼き・きのこの和え物・梨
クリスマス会	12月23日 バイキング	主食：ピザ・ランチパック（8種） 副食：ローストチキン・エビフライ・星のコロッケ・ハート コロッケ・マカロニグラタン・ポテトサラダ その他：ミネストローネ・クリスマスゼリー・シャンメリー おやつ：ショートケーキ・モンブラン・チョコレートケーキ ムース（苺・チョコバナナ・チーズ） セレクトドリンク
正月	1月1日	おせち料理（かまぼこ・お煮しめ・数の子・栗金団・錦玉子 昆布巻き・黒豆・鱈照焼・伊達巻・なます）
もちつき	1月5日	餅（あんこ・きな粉）・豚汁・魚の幽庵焼き・漬物・みかん
節分	2月1日	太巻き・清汁・筑前煮・ゼリー
選択食	2月25日	カツ丼・シシリアンライス・ねぎとろ丼から選択 セレクトデザート（ムース・プリン・アイス）
雛祭り	3月3日	散らし寿司・清汁・お煮しめ・菱餅ゼリー
春のお彼岸	3月17日	牡丹餅・豚汁・さくら和え・桃ゼリー
寿司キャラバン	3月25日	握り寿司（寿司職人によるデモンストレーションあり）

#### ●衛生管理について

ノロウイルス感染対策として、対応マニュアルの整備・汚物処理ワゴンの導入・職員への研修・手洗い時のふき取りに使用するペーパータオル使用などを行ってきた。

職員一人ひとりの衛生管理意識は年々高まってきているように感じられる。

今後も定期的にマニュアルの見直し・職員への研修を行い、職員間の情報伝達を徹底して食中毒予防に努めていきたい。また、委託会社にもノロウイルス発生時の迅速な対応・二次感染への予防など周知徹底出来るようお互いの連携を保っていく。

#### C. 利用者自治会活動への支援

「自分たち（利用者）の生活に、少しでも主体的に関わることができるように」を目的に、今年度も利用者自治会担当職員を決めて、継続的に活動支援を行ってきた。各月の報告は以下の通りである。

今年度の支援の重点目標に『仲間意識を高める』ことを掲げ、活動中に利用者同士の触れ合いが持てるように配慮してきた。

自治会の場は利用者の“声”を聞く場である。その意味で、意思決定支援の場である。利用者に興味を持ってもらい、“声”を引き出し、考え、“声”を出し判断してもらえるように、説明の際には、実物やイラスト、画像を多用しながら行ってきた。視覚からだけではなく、例えば入浴剤の入れたお湯の香りを感じてもらうなどの工夫を行ってきた。それにより、話し合いの場を楽しみにしたり、他利用者のことを気遣ってくれる姿が見られたことは大きな成果であった。

<27年度の活動実績>

月	種類	参加者	内容
4	自治会説明会	希望者	・新年度役員募集 ・選択食（親子遠足／弁当の中身）
5	役員会	役員	・会長／副会長の選出 ・親子遠足の振り返り

			・セレクトドリンク／ディスペンパック／変わり湯
6	役員会	役員	・セレクトドリンク／ジャムセレクト／変わり湯
7	役員会	役員	・夏祭りの内容検討 ・セレクトドリンク／ディスペンパック／変わり湯
8	役員会	役員	・夏祭りの感想 ・花火大会の説明 ・セレクトドリンク／ジャムセレクト／変わり湯
9	役員会	役員	・花火大会の感想 ・親睦会の説明 ・セレクトドリンク／ディスペンパック／変わり湯
	季節行事	利用者全員	・花火大会
10	役員会	役員	・親睦会の感想 ・秋祭りの内容検討 ・セレクトドリンク／ジャムセレクト／変わり湯
	親睦会	役員	・レクリエーション（ビンゴ大会）
11	役員会	役員	・秋祭りオープニングセレモニーの説明 ・オレンジマラソン壮行会の説明 ・セレクトドリンク／ディスペンパック／変わり湯
12	役員会	役員	・秋祭りの感想 ・クリスマス会の内容検討 ・セレクトドリンク／ジャムセレクト／変わり湯
1	役員会	役員	・クリスマス会の感想 ・初詣の説明 ・選択食（丼物／寿司キャラバン） ・セレクトドリンク／ディスペンパック／変わり湯
2	役員会	役員	・選択食（丼物）の感想 ・自治会総会／お疲れ様会の内容検討 ・セレクトドリンク／ジャムセレクト／変わり湯
	初詣	役員	・参拝
3	利用者自治会 総会	利用者全員	・一年間の活動報告／次年度自治会役員募集 ・二舎制実施に向けた説明会

※変わり湯・・・入浴剤を入れたお湯。月2回設定。入れる入浴剤を選んでもらっている。

#### (4) 支援体制

##### ①施設支援計画

今年度も4月から5月にかけて利用者、保護者・家族または後見人とケース担当者の三者面談を実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者等と支援目標についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

##### ②生活支援体制

###### A. 棟体制

今年度も、A・B棟と小ユニットの新生活棟の2つの生活環境をベースに支援を行ってきた。この体制に変更した以降、活動的な利用者と高齢利用者の接触事故等がゼロになったり、食事時間や全般的な課業の取り組みにおいて年齢や心身の状況に沿ったペースができて、より安心・安定した生活空間が作られてきた。

しかし、下肢機能や嚥下機能の低下が見られ介助の度合いが高くなってきたことや短期入所や日中一時支援事業利用者も含め、強いこだわりや利用者間のトラブルに配慮が必要な利用者が目立ってきたことから、比較的活動的な利用者と機能低下が見られる利用者が数的にも半々の状況に合わせていけるように、年度後半より、小ユニットの新生活棟を取りやめ、玄関前廊下にパーテーションを設置し大きくA棟B棟

を2分する二舎制体制の構築を検討してきた。3月には保護者・家族への連絡と利用者には利用者自治会総会での説明を経て、3月末から試行を開始するに至った。

男女支援員間の連携や、従来の館内の構造的な“密室化”を緩和し、更なる支援の質の向上の効果も期待しているところである。

この体制変更は、四季の郷が開所以来最も大きな体制変更ともなるため、28年度以降もこの体制のモニタリングを継続していくこととしている。

## B. 会議

今年度は、以下の会議を実施してきた。

### ●職員全体会議

半年に1回（4月・10月）開催。全職員出席。施設全般の方向性の確認や行政関連内容の報告、支援面への指示等の確認や棟・医務・栄養からの報告・内容確認。

### ●男女ケア会議

奇数月と10月は男女支援員別で実施、10月以外の偶数月は、男女支援員合同で実施した。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席。ケース検討などの支援に関わる確認・検討を行った。

### ●課業班会議

隔月1回開催。課業班担当支援員出席。課業支援の検討を行った。必要に応じて、課業班リーダーの会議も実施した。

### ●給食会議

月1回開催。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

### ●主任者会議

月1回開催。サービス管理責任者・主任支援員が出席。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。また、今年度は、職員全体・個々の状況をより把握し計画していけるように研修の計画・実施についても担当した。

### ◎QOL向上委員会

月1回開催。前年度のサービス向上委員会の名称から、より検討内容を明確にしていくために改称。サービス管理責任者・主任・委員が主席。サービス自己評価結果を受けた改善の取り組みや、「職員行動指針」の遵守に向けた取り組みの検討と共に虐待防止委員会機能を担い、人権擁護意識を高め維持していくための取り組みや身体抑制措置のモニタリングを行った。また、利用者自治会の運営についても、担当した。

### ◎危機管理・防災対策委員会

月1回開催。サービス管理責任者・主任・委員が主席。防災対策に関する取り組みの他、報告された事故事例やひやり・はっと事例からの事例検討、対策の検討を行った。

### ◎地域交流委員会

月1回開催。サービス管理責任者・主任・委員が主席。保護者会との連携、ボランティアの受け入れや育成を含め、地域との関わりを進めていく目的で今年度より新設した。そのため、春の遠足や秋祭りの行事担当も兼務した。

## 2. 研修

今年度も、主任者会議を中心に園内研修および外部研修を実施してきた。

特に、重点項目であった自閉症と高齢利用者の理解や支援・取り組みについては、外部講師に依頼し、複数回の研修・講座を実施してきた。

自閉症への取り組みについては、アメリカノースカロライナ州での自閉症支援の研修に参加したことや、二舎制体制に変更されたことで、進んでいくことが期待される。また、高齢者支援については、介護技術マニュアルとしてまとめることができたことは、大きな成果であった。

外部研修についても、知的障害者福祉協会や社会福祉協議会主催の研修を中心に、経験や関心、ケース



担当利用者との絡みでの人選を行い参加につなげた。

ただし、園内研修では、中堅・リーダー職員の研修ができなかったことや、外部研修では、すべての参加した研修について、報告会ができなかったことが反省点である。

〈27年度園内研修実績〉

日付	研修内容	対象参加者
5/8	新任職員研修	新任4名
9/28	海外研修報告会	全職員
10/29	人権擁護と虐待	全職員
11/2	自閉症支援について【外部講師】	全職員
1/29	利用者の気持ち【保護者講師】	全職員
1/26、2/9、2/23	介護技術出前講座【外部講師】	各10名
通年	自閉症研修【施設コンサルテーション事業】	3名

〈27年度外部研修実績〉

日付	研修内容	参加数
5/14～5/15	新任職員研修 I	2
6/5	接遇・マナー講座（基礎編）	1
6/9	感染症講座（初級編）	2
6/12	会議力向上講座	1
6/23、7/23、8/25、9/17	H27年度 介護・看護リーダーのための指導力養成講座（初級編）	1
6/26、6/30、7/3、7/7、9/8	相談支援従事者初任者研修	1
7/7	権利擁護・成年後見セミナー	1
7/19	東海地区知的障害関係施設職員等研究協議会	2
7/31～8/9	ノースカロライナ TEACCH プログラム視察研修	1
8/10	認知症のBPSDを考えるセミナー	2
8/14・19・25	障害者虐待防止・権利擁護研修	1
8/20～21	中堅職員研修 I	1
9/18	西区障害者自立支援連絡会	1
9/24	西部施設連絡会研修会	1
10/14	全国知的障害福祉関係職員研究大会（高知）	1
11/6、11/19、11/26、	サービス管理責任者等研修	1
11/16～11/17	県知的障害者支援施設部会研究集会	2
2/1	事例で学ぶ！「福祉実践理論」基礎講座	1
2/16	浜松市虐待防止研修会	1
2/22	西区障害者自立支援連絡会	1

3. 実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生の受け入れを行ってきた。受け入れ実績は以下の通り。

実習生受け入れ実績（平成27年4月～平成28年3月／実習受け入れ順）

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
静岡県立大学短期大学部	保育実習	6月1日～6月13日	12	2
浜松学院大学	保育実習	7月6日～7月18日	12	2
聖心女子専門学校	保育実習	7月21日～8月2日	11	2
聖隷クリストファー大学	介護実習	8月1日	1	4
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	8月8日～8月31日	18	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	8月31日～9月12日	12	2

浜松学院大学短期大学部	保育実習	9月14日～9月26日	12	2
静岡県立大学短期大学部	保育実習	10月5日～10月17日	12	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月9日～11月20日	11	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月23日～12月4日	11	2
東海福祉専門学校	介護実習	1月25日～1月29日	5	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	3月14日～3月19日	6	2
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	6月～10月の間(1日)	13	2×13
実習受け入れのべ日数			274日	
実習受け入れのべ人数			52名	

#### 4. ボランティアの受け入れ

地域交流委員会の担当で、今年度も行事運営のお手伝いの依頼を中心にボランティアの募集、受け入れを行った。行事の前に、ビラや要項を作成し近隣の大学・高校・中学校に募集依頼を出していく方法をとってきたため、学生のボランティアが多かった。結果、行事については、夏祭り(6名)、秋祭り(16名)の参加をいただけた。

また、保護者会からも、草刈りや行事のアトラクションでのお手伝いをいただいた。

ボラのお手伝いがあるからこそ夏祭りや秋祭りの行事運営ができている状況ではあるが、施設のこと、利用者のことを知っていただくため、地域での良き理解者になっていただくため、そして施設が閉鎖的にならないためにも、来年度も引き続きボラ募集・受け入れは大切なことであると感じている。

#### 5. 防災訓練等

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。その総括は以下の通りである。

実施月日	訓練実施内容
4/16	突発的地震を想定しての避難訓練を実施
5/15	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施。消火器による消火訓練実施。
6/17	南海トラフ・東海地震を想定しての法人合同防災訓練を実施。四季の郷では避難所開設、運営訓練を実施。「安否コール」による職員・家族安否確認・連絡訓練実施。
7/15	夜間火災を想定しての図上訓練を実施。
8/19	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施。消火器による消火訓練実施。
9/10	安否コールを使用し送受信訓練及び非常招集訓練を実施。 夜間の突発地震を想定しての避難訓練。
10/28	消防署との逆信応答訓練。
11/27	「社会福祉施設防災の日」実施要領に沿っての総合防災訓練を実施 地震及び火災発生を想定しての避難訓練・情報伝達訓練・応急対策訓。思考判断強化訓練。
12/8	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施
1/20	夜間火災を想定しての避難訓練
2/23	防災講習会を開催。怪我の応急手当訓練
3/9	平日の日中火災を想定して、抜き打ち避難訓練を実施

6. 短期入所

(1) 受け入れ実績

平成27年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	男 (のべ日数/実人数)						月計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
4			51/3	12/3	81/8		144/14
5			54/3	10/3	89/8		153/14
6		2/1	38/3	9/3	78/6		127/13
7			50/3	5/2	91/9		146/14
8			50/3	5/2	90/9		145/14
9			52/3	5/2	89/8		146/13
10			55/3	5/2	83/7		143/12
11			50/3	5/2	76/6		131/11
12			50/3	5/2	82/7		137/12
1			20/2	40/4	70/8		130/14
2			6/1	33/3	50/6		89/10
3			15/2	38/3	72/7		125/12
区分別日数計	0日 0人	2日 1人	491日 32人	172日 31人	951日 89人	0日 0人	1616日 153人
合計年度比較	<p>平成27年度 のべ1,616日/153人</p> <p>平成26年度 のべ1,709日/177人</p>						

月	女 (のべ日数/実人数)						月計
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
4			3/1	7/1			10/2
5				12/3			12/3
6				9/2			9/2
7	2/1			8/2			10/3
8				12/2			12/2
9	2/1			13/2			15/3
10	2/1			16/3	2/1		20/5
11	2/1			25/3	3/1		30/5
12				14/2			14/2
1				19/2			19/2
2				13/2	8/2		21/4

3	2/1			7/2	9/1		18/4
区分日数計	10日 5人	0日 0人	3日 1人	155日 26人	22日 5人	0日 0人	190日 37人
合計年度比較	平成27年度 のべ190日/37人 平成26年度 のべ347日/45人						
総括	<p>●合計数：平成26年度 のべ1,806日/190人 平成26年度 のべ2,056日/222人 (日数26年度比0.87倍) (のべ人数26年度比0.85倍)</p> <p>●一日平均利用者数：4.9人 &lt;定員8名&gt; 年間稼働率 61.9% (26年度70.4%)</p> <p>●利用総日数での男性利用者の割合：89.4% (26年度83.1%)</p>						

## (2) 受け入れの状況

今年度受け入れについては、以下のような特徴・傾向が見られた。

### ○26年度実績と比べると、利用者人数が減少したこと

前年度に比べ、今年度は利用者数、それに伴う利用のべ日数共に減少した。この原因は、四季の郷短期入所の長期利用者(長期日数の支給決定がなされている利用者)が施設入所に移行したことによる利用減と、それに代わる長期利用者の利用がなかったことが大きいと考えられる。(27年度末の状況で、月のほとんどを四季の郷で生活している短期入所利用者は男性2名となっている。)

### ○全体的には、男性利用者の利用比率が前年度より高くなっていること

全体的な比率から考えると、前年度より約6ポイント、男性利用者の利用率が増加した。このことは、26年度から27年度に限ったことと言うより、そもそも男性利用者の利用率が年々増加傾向にあるといった方が適当である。

### ○男性支援区分5判定の利用者が増加していること

全般的に利用者数が減っている中で、支援区分5判定の男性利用日数が前年度よりかなり増加していた(27年度は951日で全体の58.8%、26年度は814日、47.6%)ことは今年度の特徴的なところであった。区分5判定の利用者数も増加しているため、より多くの重度利用者が短期間ずつ利用したということも言える。

利用数の減少は、事業経営の面からは減収益となるため、運営上の総括が必要であると考えられるが、重度の短期入所利用者のニーズ・利用の増加は、高齢化・重度化(支援の度合いが増している)の状態にある入所利用者への支援に質・量両面の影響があることも否めなかった。支援の量や質を担保していくために、今年度、2名の掃除や洗濯等の間接支援面を担う非常勤職員に加わってもらったり、年齢や身体の状況(特に下肢機能の低下)に合わせて、A・B棟の二舎制での支援体制について検討を重ねてきた。

引き続き、施設入所が困難な状況やいわゆる“親亡き後”の状況が進んでいる現状から、短期入所の利用ニーズはより増加していく傾向にあるため、より多くの利用受け入れができるように、支援体制の確立や支援の質の向上に努めていくことが大切であると感じている。

その他、1月末から2月にかけて、四季の郷内でインフルエンザA型が流行したため、生活介護の通所者と共に短期入所の利用についても原則受け入れを停止した。2月の利用が少ないのはそのためである。

## (3) 生活支援

今年度も、新規利用希望者については、必ず面談を行い、日帰り利用や一泊試行利用等から利用者にも無理にならないよう配慮しながら受け入れを行った。相談支援事業者や精神科病院からの依頼については、必ず本人・ご家族はじめ関係者を交えたケア会議・調整会議等を行った。

支援体制面では、日常支援は棟単位の同性職員での関わりを継続してきた。課業活動支援についても、他の入所利用者同様に課業活動参加等の誘いかけも行ってきたが、日中を通し落ち着く場所となるべく過ごしてもらったり、音楽を聞くなどの好きなことが行える機会を提供するなど、個別に過ごしてもらった状況も多

く見られた。

7. 日中一時支援事業

(1) 受け入れ実績

平成27年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	浜松市 (実人数・のべ時間)		磐田市	
	男	女	男	女
4	6人/167時間	4人/233時間		
5	5/182	4/169		
6	6/181	4/160		
7	6/169	3/203		
8	4/198	2/157		
9	5/179	4/198		
10	6/186	4/212		
11	4/137	3/176		
12	5/147	3/157		
1	5/176	3/161		
2	5/115	3/189		
3	4/92	3/186		
計	61人 1929時間	40人 2201時間	なし	なし
	<b>4,130時間</b> (平成26年度 4,483時間) ◎26年度比 人数 男性 1.3倍/女性 0.7倍 時間数 男性 1.0倍/女性 0.9倍			

(2) 受け入れの状況

今年度も、市町の地域生活支援事業の一つとして、浜松市と磐田市の2つの市町と委託契約を締結し事業を実施したが、磐田市からの利用は一件も見られなかった。

利用状況を見ると、その多くが法人内日中活動系事業所の利用者で、日中事業の利用終了後から仕事が終わる家族の迎えができるまでの間の利用と、日中活動がない土・日、祝日の利用であった。

夕食後の帰宅の要望もあり対応してきたが、特に食事摂取時に見守りや何らかの介助が必要な利用者も目立ち、入所利用者、短期入所利用者の状況と合わせ、体制的な支援の困難さを感じた。全体的な利用時間数は減ったものの、比較的重度の男性利用者が増加したのは短期入所の状況と同じではないかと推察される。